

国 語

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年 (調査冊数)
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書 ◆	1 0 9 ・ 1 1 0 2 0 9 ・ 2 1 0 国語 3 0 9 ・ 3 1 0 4 0 9 ・ 4 1 0 5 0 9 6 0 9	B 5 1,922	令和5年 (32冊)
17	教育出版	教 出 ◆	1 1 1 ・ 1 1 2 2 1 1 ・ 2 1 2 国語 3 1 1 ・ 3 1 2 4 1 1 ・ 4 1 2 5 1 1 ・ 5 1 2 6 1 1 ・ 6 1 2	B 5 1,998	
38	光村図書	光 村 ◆	1 1 3 ・ 1 1 4 2 1 3 ・ 2 1 4 国語 3 1 3 ・ 3 1 4 4 1 3 ・ 4 1 4 5 1 3 6 1 3	B 5 1,879	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」(学校教育法第34条第2項に規定する教材)の発行予定があることを示しています。

校 種	聴覚障害特別支援学校	肢体不自由・病弱特別支援学校
児童の実態 観点	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度である。	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度である。 ・慢性の疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度である。
内容の 取扱い等	1 障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等 2 障害への配慮を要する内容等	①聴覚障害の理解に関わる記述があるもの ①学校生活や社会生活に身近な題材を取り上げているもの ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述等があるもの ①言葉や音を聞き取る活動があり、学習活動に困難が想定されるもの ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの ①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの ②病気の治療による運動制限から、経験できない体育的活動を扱った題材が取り上げられているもの ③各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの
構成上の工夫	障害の状態に応じた事項、その他	①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの ②学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの ①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの

小学部 国語(聴覚障害特別支援学校)

発行者		東書	教出	光村
内	[知識及び技能]の内容を取り上げている箇所数	189	146	160
	[思考力, 判断力, 表現力等]「話すこと・聞くこと」の単元数	32	33	33
	[思考力, 判断力, 表現力等]「書くこと」の単元数	37	43	48
	[思考力, 判断力, 表現力等]「読むこと」の作品数	203	149	202
	発展的な内容を取り上げている箇所数	0	0	0
容	聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①聴覚障害の理解に関わる記述があるもの	14箇所 ①3年下「いろいろなつたえ方」では、様々な伝え方の一つとして、文章や絵を用いて手話を説明している。(P60-61)	8箇所 ①4年下「手話であいさつをしよう」では、声を使わない言語として手話を紹介し、手話表現例を絵で示してある。(P92-93)	9箇所 ①5年「点字と手話」では、指文字の表や手話の表現例を示してある。(P258-259)
	聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動があり、学習活動に困難が想定されるもの ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの	47箇所 ①1年上「おおきななぐ」では、物語を声に出して楽しむ活動があり、取り扱う際に困難がある。(P92) ②5年「地域の魅力を伝えよう」では、タウン誌を作成する際に、地域の人にインタビューする活動があり、補助的な手段が必要である。(P60-62) ③3年下「俳句に親しもう」では、虫の鳴き声など音に関する言い回しが使われているため、読解の際に説明が必要である。(P70-71)	82箇所 ①4年上「落語を声に出して楽しもう」では、読む速さや強さ、間を表現したり、友達が表現したものを聞き取ったりする活動があり、取り扱う際に困難がある。(P92-93) ②3年上「インタビューをしよう」では、電話でインタビューを申し込むことや聞き方の注意が示されており、補助的な手段が必要である。(P107) ③2年下「かさこじぞう」では方言などの特徴的な言い回しが使われているため、読解の際に説明が必要である。(P88)	60箇所 ①2年上「ことばでみちあんない」では、電話による道案内の仕方を通して、対話の練習をする活動があり、取り扱う際に困難がある。(P116-117) ②4年上「新聞を作ろう」では、記事のテーマを決め、それに關する取材をする活動があり、補助的な手段が必要である。(P94) ③6年「狂言『柿山伏』」では、狂言特有の特徴的な言い回しが使われているため、読解の際に説明が必要である。(P152)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 30ポイント 6年最終 15ポイント	1年最初 24ポイント 6年最終 16ポイント	1年最初 20ポイント 6年最終 12ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 10文字×2行 6年最終 31文字×14行	1年最初 20文字×8行 6年最終 37文字×14行	1年最初 16文字×10行 6年最終 39文字×15行
	欄外の文字の大きさ	1年 14ポイント 6年 9ポイント	1年 15ポイント 6年 12ポイント	1年 11ポイント 6年 8ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの ②学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの	①2年下「なまになることば」では、季節や方角などの言葉について絵で示してある。(P40-41) ②全学年において、各単元の最初に、「学習の流れ」として学習のポイントが枠囲みで簡潔に示してある。(6年P40など)	①4年下「故事成語」では、言葉の成り立ちや意味を絵や4コマ漫画で示してある。(P70-71) ②全学年において、単元末に「ここが大事」として学習の要点が枠組みで示してある。(4年下P43など)	①1年上「うたにあわせてあいうえお」では、発音する際の口形が写真で示してある。(P20-21) ②全学年において、「たいせつ」として学習の要点が枠囲みで示してある。(1年下P87など)
参考	神話や伝承を知り、日本の文化や伝統に関心をもたせる資料	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	障害者理解に関する扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	なし	あり
	固定的な性別役割分担意識に関する記述等	あり	あり	あり

小学部 国語(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		東書	教出	光村
内容	[知識及び技能]の内容を取り上げている箇所数	189	146	160
	[思考力、判断力、表現力等]「話すこと・聞くこと」の単元数	32	33	33
	[思考力、判断力、表現力等]「書くこと」の単元数	37	43	48
	[思考力、判断力、表現力等]「読むこと」の作品数	203	149	202
	発展的な内容を取り上げている箇所数	0	0	0
	肢体不自由・病弱の児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①学校生活や社会生活に身近な題材を取り上げているもの ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述等があるもの	76箇所 ①3年上「『給食だより』を読みくらべよう」では、2つの給食便りを読み比べるだけでなく、他の便りについても取り上げてある。(P90-91) ②4年上「『できない』の先に」では、ALSの説明や分身ロボットを取り上げてある。(P110-111)	66箇所 ①5年上「図書館を活用しよう」では、図書館にある本や資料・情報の探し方について取り上げてある。(P77) ②3年上「3年生で読みたい本①」では、命の重みというテーマで病弱に関する本を複数示してある。(P140-141)	83箇所 ①2年上「図書館たんけん」では、本が探しやすいように仲間分けされていることについて取り上げてある。(P33) ②6年「私と本」では、パラスリートの写真を撮るカメラマンが筆者である本を示してある。(P86)
肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの ②病気の治療による運動制限から、経験できない体育的活動を扱った題材が取り上げられているもの ③各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの	37箇所 ①1年上「あいうえおのことはあつめよう」では、ことばに合わせて手を叩く活動があり、上肢の操作性等から学習活動に困難がある。(P20-21) ②1年下「みみずのたいそう」では、身体を動かしながら声を出して読む活動があり、学習の際に配慮が必要である。(P88-89) ③4年上「クラスで話し合って決めよう」では、役割を考えながらクラスで話し合いを行う活動があり、児童数によっては取扱いが困難である。(P124-129)	63箇所 ①1年下「したこととむすびつけてよう」では、音読に合わせて身振りで動きを表す活動があり、上肢の操作性等から学習活動に困難がある。(P98-99) ②6年上「あの坂をのぼれば」では、坂を歩いて上ることを題材としており、学習の際に配慮が必要である。(P14) ③2年上「でんごんクイズをする」では、グループで伝言クイズを行う活動があり、児童数によっては取扱いが困難である。(P35)	50箇所 ①2年下「紙コップ花火の作り方」では、紙コップでおもちゃを作る活動があり、上肢の操作性等から学習活動に困難がある。(P42) ②4年下「漢字の広場4」では、子供たちが運動場で体育的活動をしている場面があり、学習の際に配慮が必要である。(P64) ③5年「どちらを選びますか」では、チームに分かれて話し合いを行う活動があり、児童数によっては取扱いが困難である。(P104-105)	
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 30ポイント 6年最終 15ポイント	1年最初 24ポイント 6年最終 16ポイント	1年最初 20ポイント 6年最終 12ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 10文字×2行 6年最終 31文字×14行	1年最初 20文字×8行 6年最終 37文字×14行	1年最初 16文字×10行 6年最終 39文字×15行
	欄外の文字の大きさ	1年 14ポイント 6年 9ポイント	1年 15ポイント 6年 12ポイント	1年 11ポイント 6年 8ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①学習のポイント等が大きな文字や枠組み等で簡潔に記されていたり、各単元等のもままりが記されていたりするもの ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの	①各単元の最初に、「学習の流れ」として学習のポイントが枠組みで簡潔に示してある。(6年P40など) ②6年「社会教育施設へ行こう」では、図書館を始め様々な施設を写真で示してある。(P34-35) ③2年上「国語の学しゅうのすすめかた」では、学習の進め方を見開きで示してある。(P8-9)	①単元ごとに、「ここが大事」として学習のポイントが枠組みで示してある。(4年下P43など) ②3年下「川をつなぐちえ」では、川と川をつなぐ水路を写真や絵で示してある。(P86-87) ③2年上「しを讀もう」では、詩の本文を見開きで示してある。(P98-99)	①単元ごとに、「たいせつ」として学習のポイントが枠組みで示してある。(1年下P87など) ②4年上「夏の楽しみ」では、夏の行事に関することを写真や絵で示してある。(P102-103) ③3年上「春のくらし」では、春に関する詩や花、野菜の絵を見開きで示してある。(P42-43)
参考	神話や伝承を知り、日本の文化や伝統に関心をもたせる資料	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	障害者理解に関する扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	なし	あり
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	あり	あり	あり	

